



ホームページ更新中「小値賀小学校」で検索

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成31年 2月 5日 第18号
校長 酒井元治

島中の声援を背に



先日開催しました小中ロードレース大会には、お忙しい中、保護者の皆様、地域の皆様にはたくさんのご声援をいただき、誠にありがとうございました。当日は寒くもなく、絶好のロードレース日和だったと思います。小中学校より先に行われました高校のロードレース大会では、小学生も授業の合間や休み時間に声援を送らせてもらいました。高校生の力強い走りが小中学生のお手本にもなったことでしょう。

また、前回の値小だよりでもお伝えしていましたように、小中の合同練習の中で中学生がかけてくれた励ましの言葉も大きな力になりました。中には寒いことを理由になかなか走りたがらない低学年を上手に誘ってくれる中学生や1年生のスピードに合わせて伴走してくれる中学生の姿が多くありました。

前日には、ここ数年行っているロードレース前集会で中学生が翌日の本番に向けて檄を飛ばし、各学年の思いを映したビデオを全員で見ました。1月になってからの取組だったので短い期間でしたが、よく計画された取組だと主催者側ながらに思います。

そして、当日。まずこのロードレースの意味を自ら示してくれた中学生。上位に食い込むことだけでなく、最後まで走る、みんなと走るということを小学生にしっかりと見せてくれました。沿道ではこども園の園児からご年配の皆様まで、島中のご声援をいただきながら走った子どもたちです。高学年のスタートでは男の子と女の子が接触、転倒する場面もありました。男の子はどうか再スタートができたのですが、女の子の方は出血と痛みもあり、再スタートは無理かと思われました。しかし、どうか涙を流しながらもスタートを切ることができました。励ますためにと思い一緒に走った私でしたが、思いの外この子の走りも速く折り返し地点からしばらくしたところで置いていかれたので、彼女の足手まといになるよりはと(言い訳)リタイヤした次第です。終わってみれば、リタイヤしたのは私だけ、小学生も中学生も見事な走りを見せてくれました。



平成30年度 小中学校合同ロードレース大会の結果

1・2年; 1000m 3・4年; 1200m 5・6年; 1400m

学年	1位	2位	3位
1年	濱田 結海 (大島) (4分23秒)	松本 優世 (4分33秒)	川端 風駕 (4分51秒)
2年	富永 唯仁 (3分51秒)	岩永 大空 (3分56秒)	濱田 乃愛 (大島) (4分02秒)
3年	小崎 愛音 (大島) (4分38秒)	田中 愛心海 (4分50秒)	角永 大晟 (4分55秒)
4年	宮崎 真之 (4分31秒)	田中 瑠海 (4分35秒)	森岡 聖蓮 (5分04秒)
5年	境 久渡 (5分32秒)	田中 海音 (5分33秒)	松本 我道 (5分36秒)
6年	森岡 聖斗 (4分56秒)	遠山 琉伊 (5分05秒)	川口 優紀 (5分32秒)



ロードレース中の写真はホームページにアップします。ご覧ください



小値賀小、冬の風物詩「かるた大会」

毎年恒例となっている「かるた大会」を2月1日に行いました。かるたはもちろんご当地「おぢか 良かところかるた よかところめぐり」です。このかるたは、今から15年ほど前「ながさき島の自然学校」が企画し、読み札の詠を一般公募、選定して製作したものです。

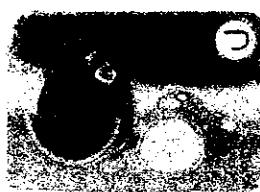
小値賀小の大会は、全学年を6つの班に分け、その班をさらに2～3人のチームにします。1チームには学年が違った子どもたちが集まることとなります。つまり「1班1チーム」「1班2チーム」…といったようになり、「班」の1～5チームの取った札の総計がその「班」の得点となります。それぞれのチームは、6か所に別れ、対戦相手を代えながら3試合します。チーム内も読み札1枚ごとに代表を一人出し交代していきます。

見てみると、もちろん得意な子もいれば、苦手な子もいます。すばらしいと思うことは、取れない子を非難したりなじったりすることが見られないこと。また、高学年のリードや言葉かけが温かいことです。「あの子、小さな子どもの面倒を見るのあまり得意じゃなかったはずけどな。」と思っていた子が、とても温かい言葉で、いい表情で低学年にかかわっているのです。

校長室には、私の前任、魚屋校長先生が残していかれたであろう手作りの置物があります。そこには「人は人を浴びて人となる」という言葉が刻んであります。正にその通りだと感じるのです。

さて、注目の優勝は1班（137枚）、2位は3班（136枚）、3位は5班（115枚）で1位と2位はなんと1枚差の白熱した戦いでした。そして一番多くの札をとったチームは川口優紀さん、川端風駕君のペアで43枚でした。

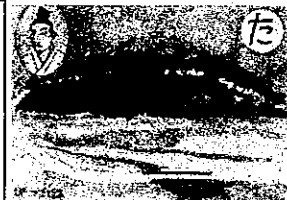
この15年ほど前に作られたかるたには、私の知っている方の名前もあったので一部ご紹介します。（著作権無視でごめんなさい。）



赤土(つち)がまむ
スイカメロンは
郷土(さと)自慢
近藤 有雄



は
夏はテントの
花が咲く
横山 英示



たそがれの
膳所城(せせじょう)におむる
定公(さだむこう)
増元 洋子

今年は「オハシマン」の登場だ！

我が国における学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA（アジア救済公認団体）から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されました。同年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬休みと重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。



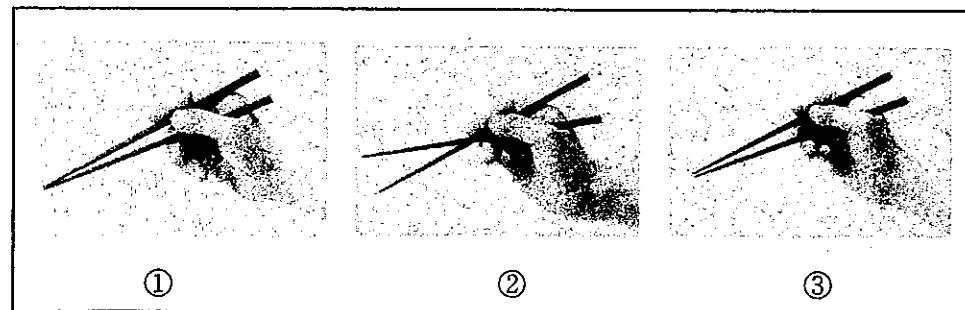
小値賀小学校でも、食の大切さ、給食の調理はもちろん食品の生産や流通にかかわってくださる方への感謝を学ぶために、この週間の前後も含め様々な取組を行っています。例えば、近藤栄養教諭による各学級への栄養指導、調理員さんへの感謝の手紙、中学生との交流給食、給食にかかわる業者さんを招いての招待給食などです。

そして、毎年恒例となっている健やか委員会による集会です。今年は「食事のマナーにサン給集会」と題して、箸の持ち方や配膳のマナーなどについて、委員会の子どもたちが寸劇をしたり、クイズを出したりします。今年のヒーローは「オハシマン」。金と銀の箸を持って大活躍です。

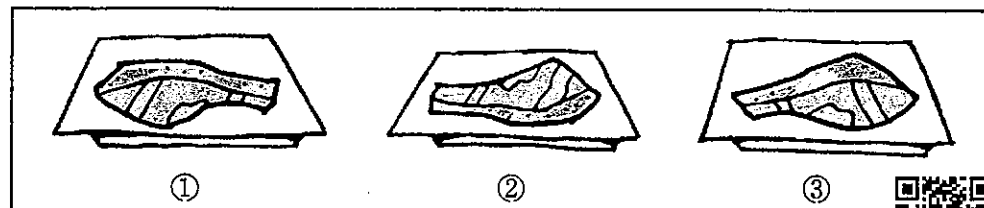


この集会で出題されたクイズを紹介します。お子様と復習をしてみてください。

箸の持ち方
正しいのは
どれ？



魚の切り身
正しい置き
方はどれ？



答えはホームページにて（となりのQRコードから）

